

令和元年度 決算の概要

決算規模(一般会計)

歳入は前年度比0.2%増の50,617,983千円、歳出は同0.1%減の49,720,163千円

歳入決算額 50,617,983千円

(前年度比 +116,179千円 +0.2%)

歳出決算額 49,720,163千円

(前年度比 ▲ 38,214千円 ▲0.1%)

形式収支・実質収支(一般会計)

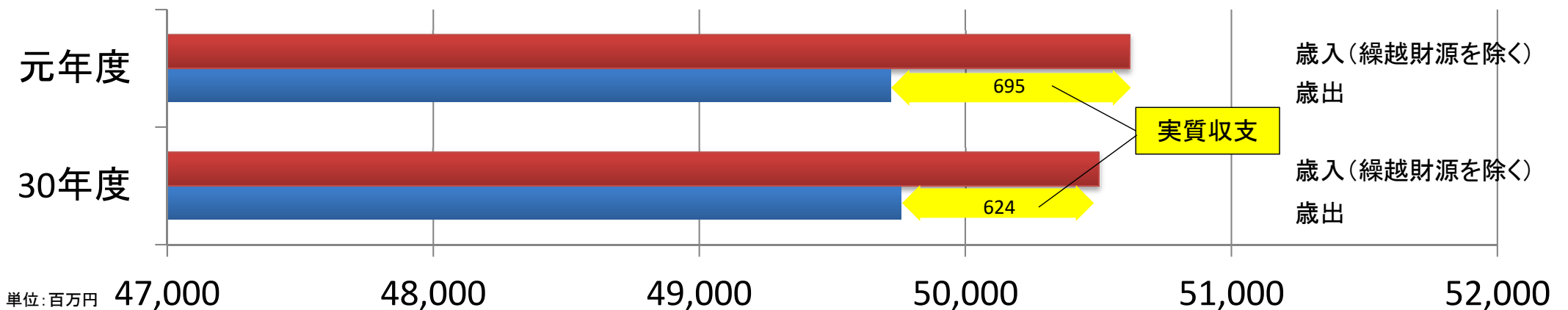
歳入から歳出を引いた形式収支は前年度比20.8%増の897,820千円、その形式収支から繰越事業のため翌年度に繰越すべき財源を差し引いた実質収支は同11.3%増の694,536千円

形式収支 897,820千円

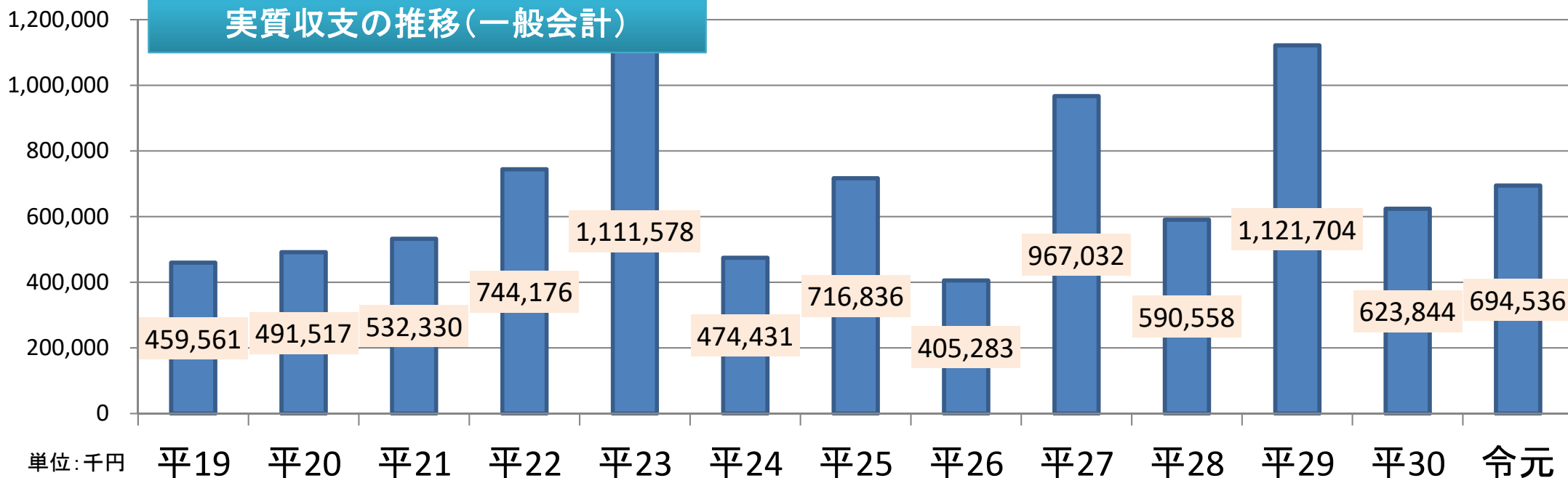
(前年度比+154,393千円 20.8%増)

実質収支 694,536千円

(前年度比+ 70,692千円 11.3%増)



実質収支の推移(一般会計)



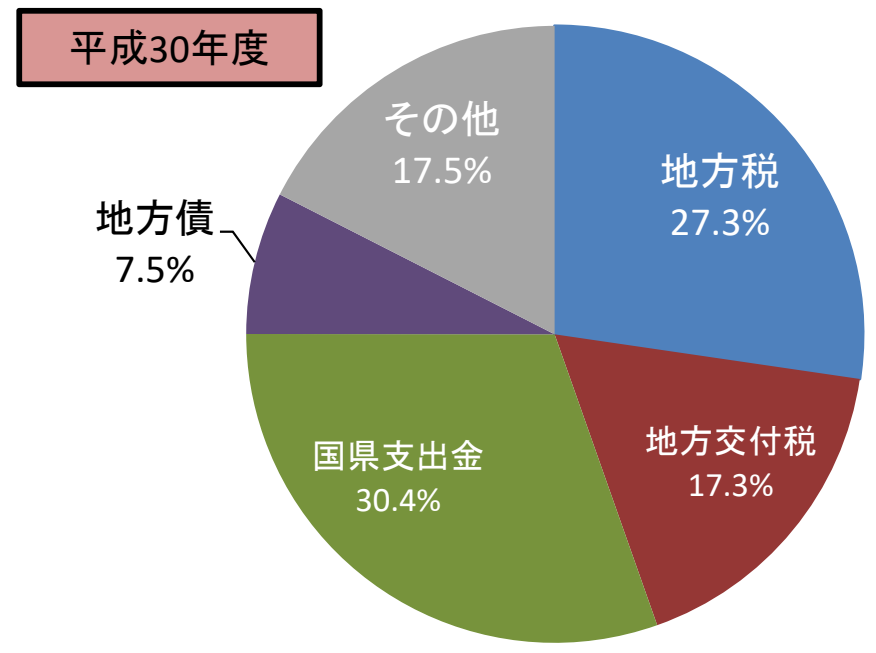
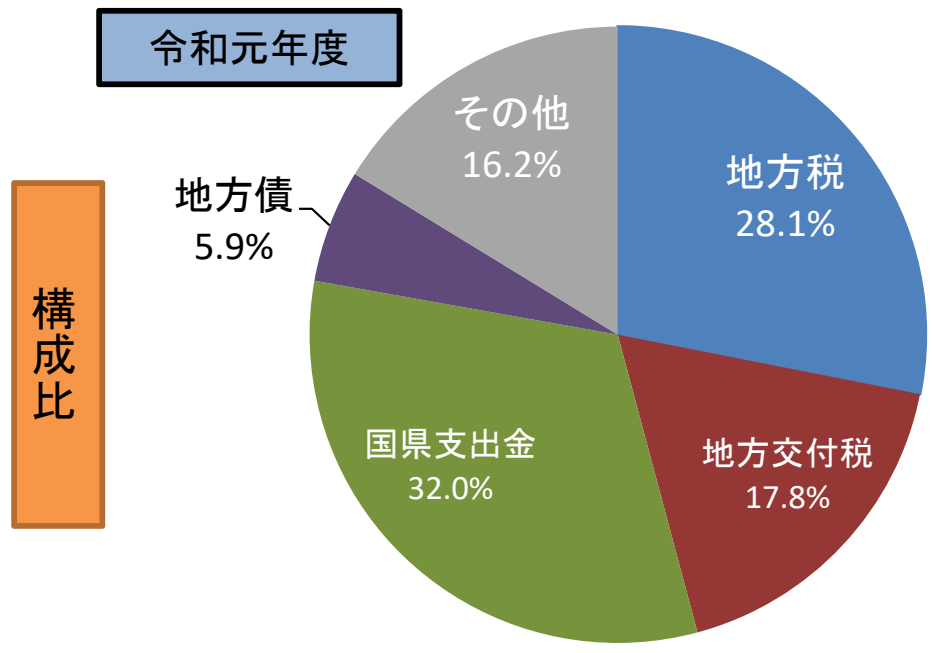
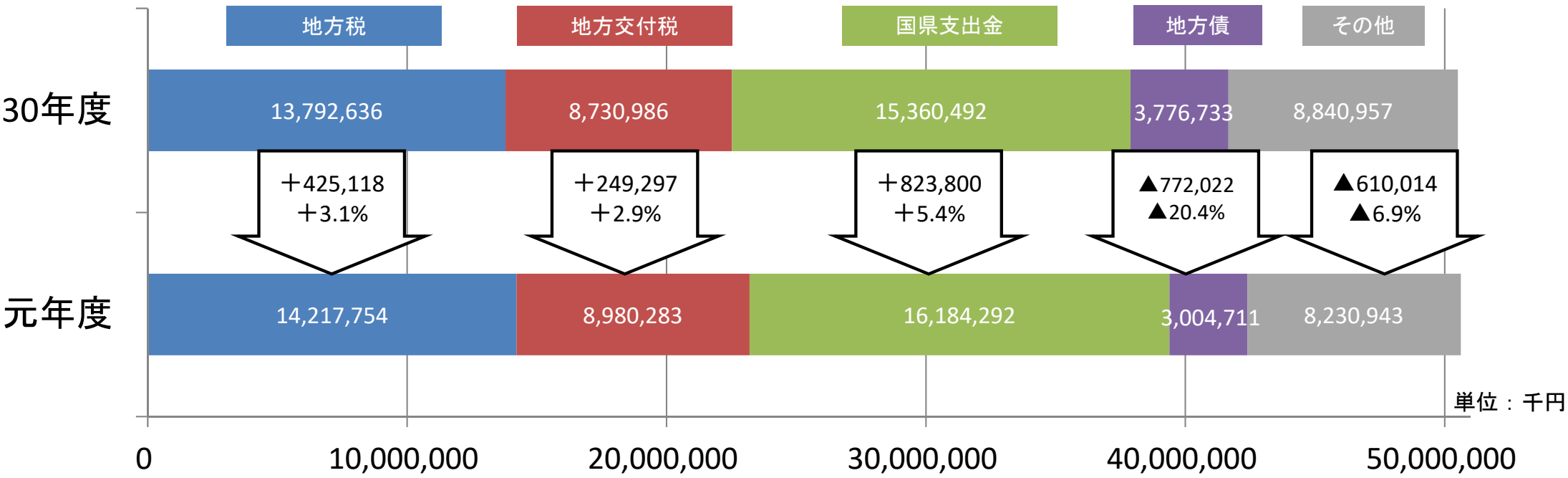
決算規模(特別会計)

特別会計の実質収支は前年度比 544,204千円増 (72.1%増) の 1,298,890千円

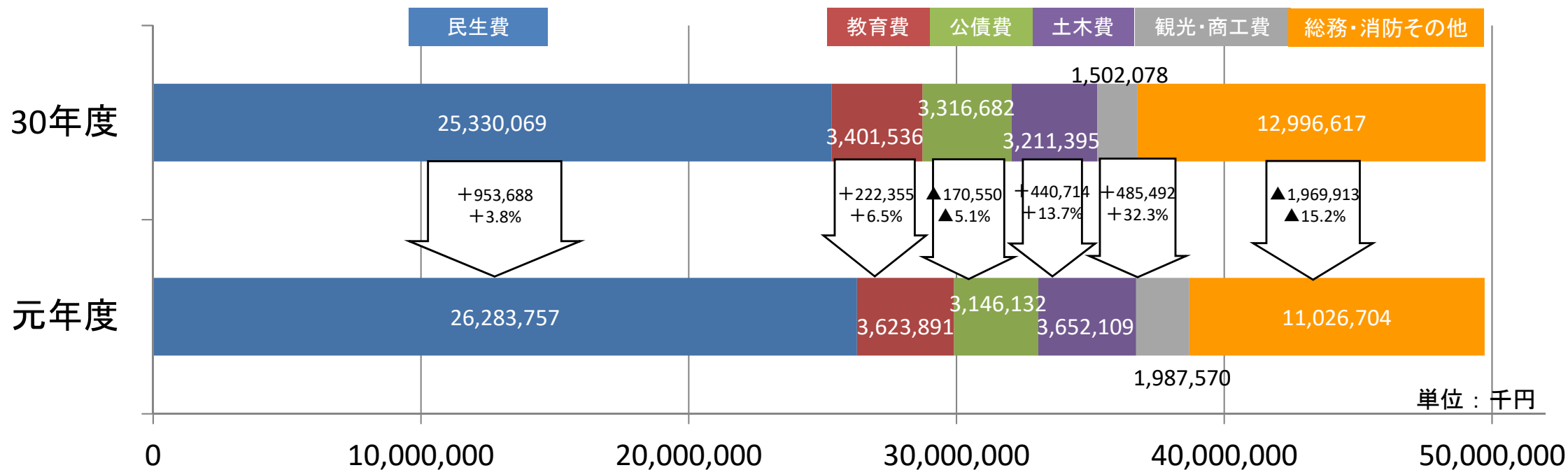
単位:千円

	歳入	歳出	歳入歳出差引額	翌年度へ繰越すべき財源	実質収支	翌年度からの繰上充用額
国民健康保険事業	14,673,381	14,067,400	605,981	0	605,981	—
競輪事業	21,886,618	21,696,117	190,501	0	190,501	—
公共用地先行取得事業	0	0	0	0	0	—
公共下水道事業	2,146,923	1,939,355	207,568	0	207,568	—
地方卸売市場事業	36,685	36,685	0	0	0	—
介護保険事業	12,873,026	12,584,781	288,245	0	288,245	—
後期高齢者医療	1,660,549	1,653,954	6,595	0	6,595	—
特別会計 合計	53,277,182	51,978,292	1,298,890	0	1,298,890	—

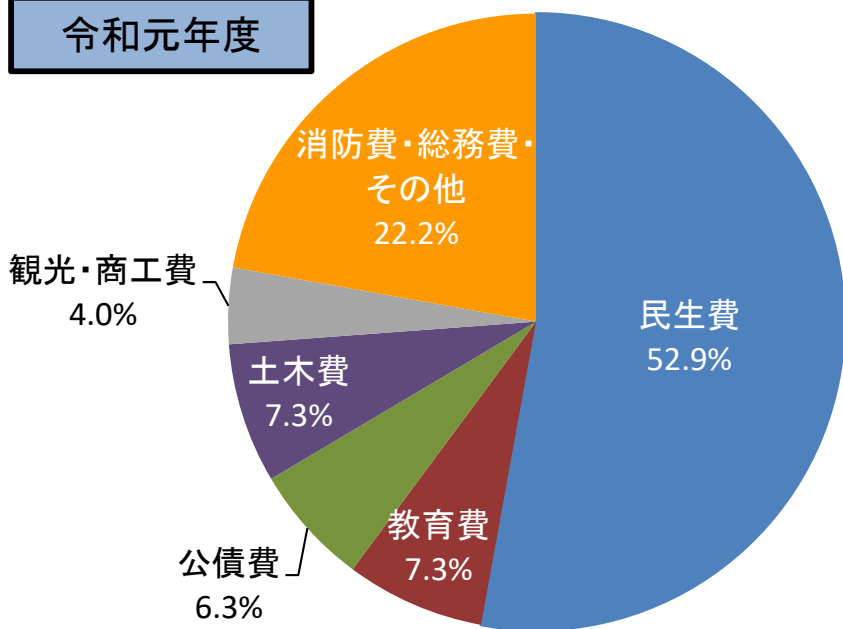
歳入の状況(一般会計)



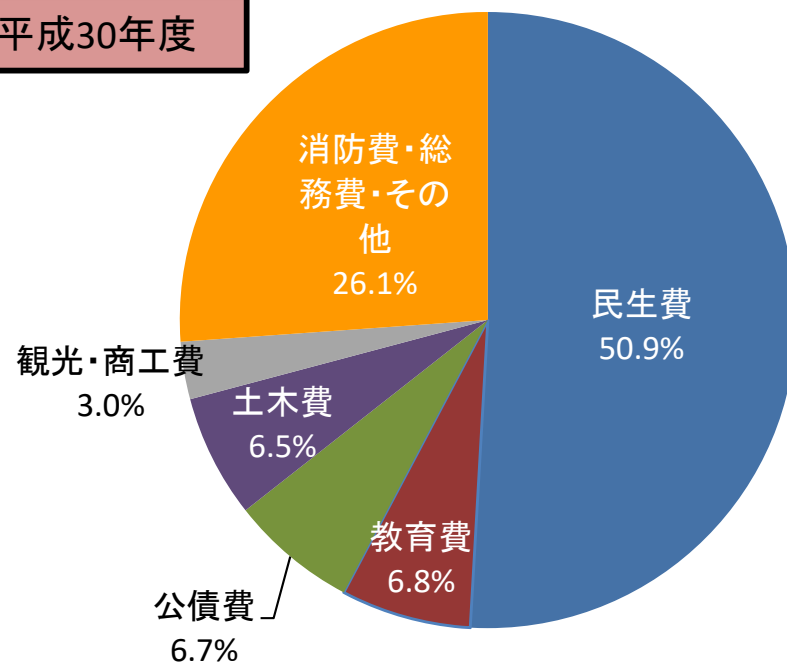
目的別歳出の状況(一般会計)



令和元年度



平成30年度



市民一人あたりの決算額(一般会計)

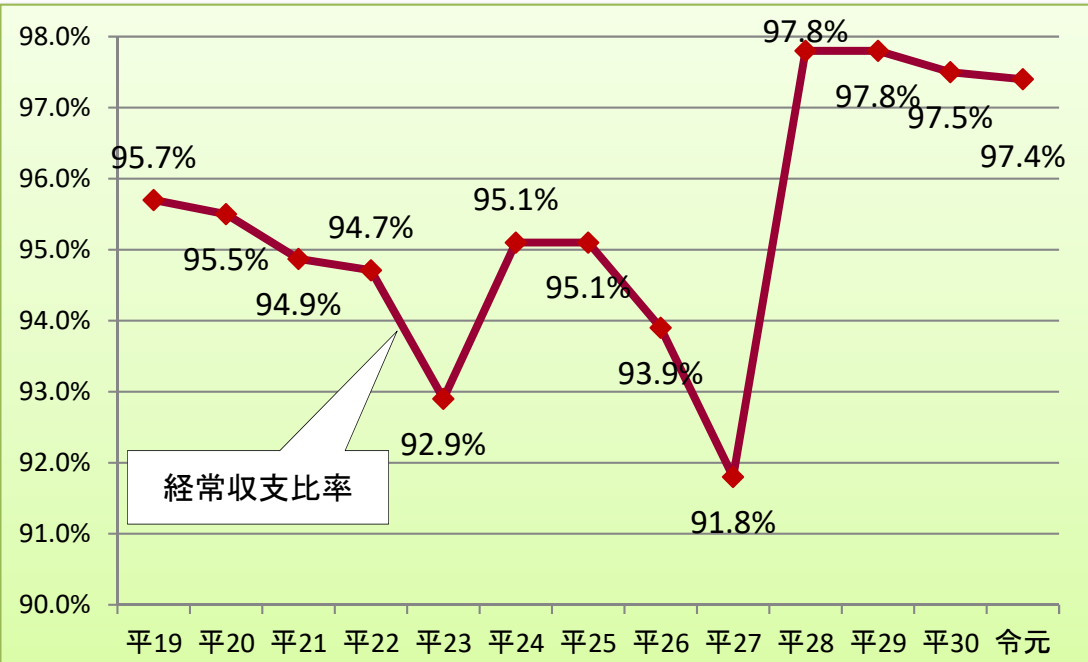
目的別	主な用途	令和元年度 (115,848人)		平成30年度 (117,017人)	
		決算額	市民一人あたり	決算額	市民一人あたり
民生費	社会保障、子育て支援、高齢者福祉、障がい者福祉	26,283,757千円	226,881円	25,330,069千円	216,465円
議会費・総務費	市議会・市役所の運営など	6,500,611千円	56,113円	6,779,514千円	57,936円
土木費・災害復旧費・諸支出金	道路、街路、公園整備、海岸整備、災害復旧・土地等取得費など	3,678,773千円	31,755円	3,290,546千円	28,120円
教育費	幼稚園・小・中・学校教育・社会教育・スポーツ振興など	3,623,891千円	31,282円	3,401,536千円	29,069円
公債費	市債(借金)の返済	3,146,132千円	27,157円	3,316,682千円	28,344円
衛生費	健康増進、ごみ処理、環境保全など	2,848,958千円	24,592円	4,531,433千円	38,724円
商工費・観光費	商工・温泉・観光振興など	1,987,570千円	17,157円	1,502,078千円	12,836円
消防費	消防・防災対策など	1,242,338千円	10,724円	1,230,402千円	10,515円
労働費・農林水産業費	消費者・勤労者対策、農林水産業振興など	408,133千円	3,523円	376,117千円	3,214円
合 計		49,720,163千円	429,184円	49,758,377千円	425,223円

普通会計決算の主な財政指標

経常収支比率 97.4%(H30 97.5%)

経常収支比率は、地方税や普通地方交付税などの経常的な収入が、人件費や扶助費などの経常的な経費に、どの程度充てられているかを示す指標です。

令和元年度の比率は、人件費、繰出金などの増加により経常経費充当一般財源等が増加しましたが、地方税や普通地方交付税などの経常一般財源の増加幅のほうが大きかったことに伴い、前年度より0.1ポイント改善し、97.4%となりました。

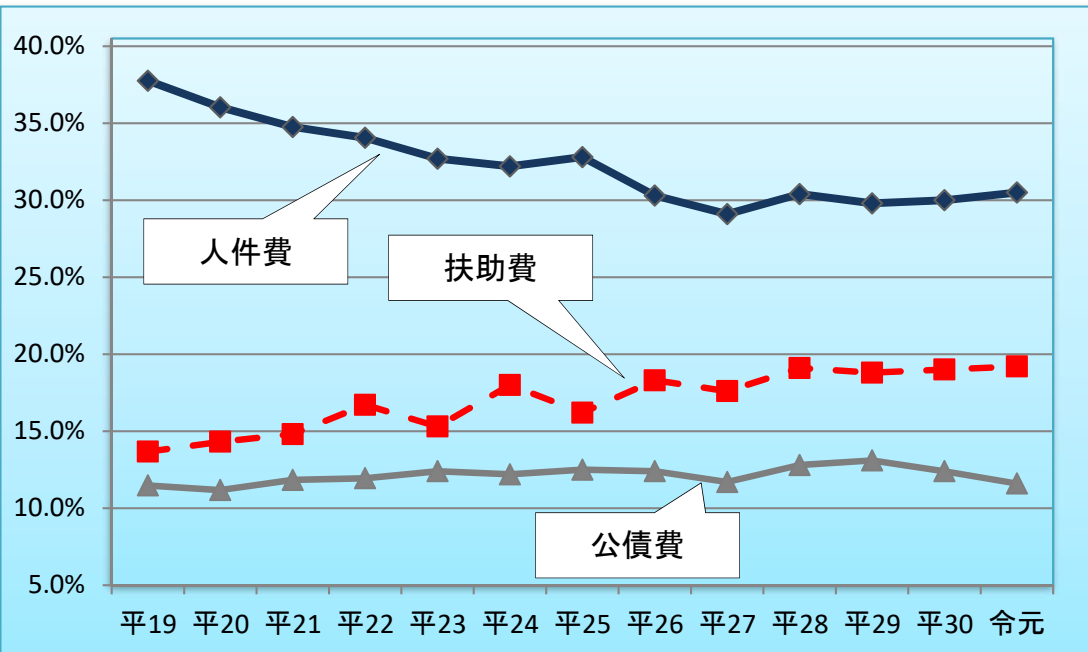


義務的経費の経常収支比率

義務的経費である人件費の経常収支比率は30.5%、扶助費は19.2%、公債費は11.6%となりました。

公債費は、退職手当債などの元利償還金が減少したことにより0.8ポイント改善しました。

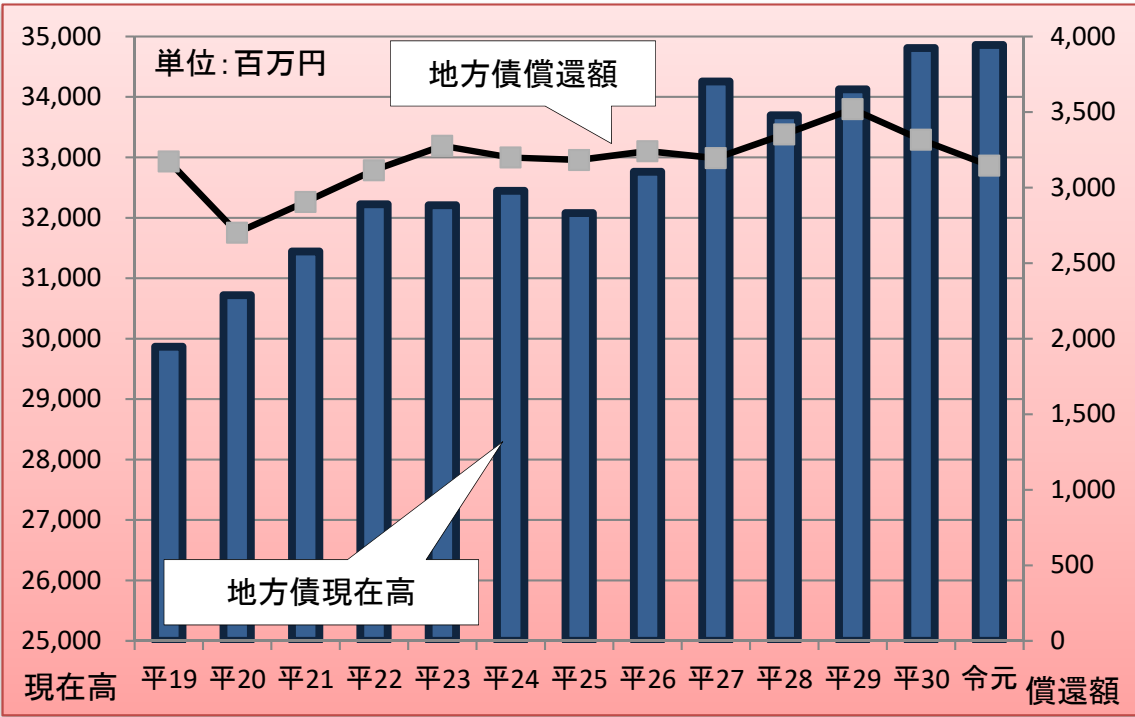
一方、人件費は、退職手当などが増加したことにより0.5ポイント悪化し、扶助費は、児童扶養手当などが増加したことにより0.2ポイント悪化しました。



地方債の状況

償還額は減少したものの、公共施設の老朽化対策による大規模改修等を実施したことにより、借入額が償還額を上回り、地方債残高は増加(+49,122千円)しました。

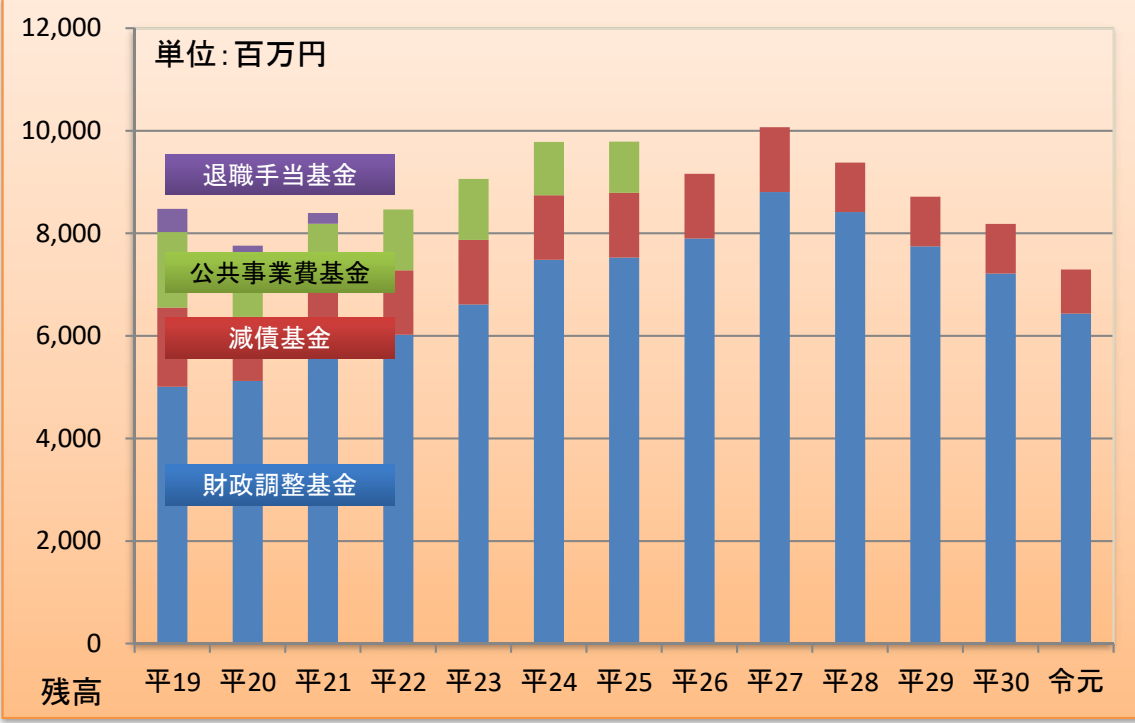
地方債残高(34,858,428千円)のうち、後年度に償還が地方交付税で措置される臨時財政対策債の残高は18,856,300千円で、全体の54.1%を占めています。



主要基金の状況

主要基金(財政調整基金・減債基金)は、災害等の突発的な支出や税収の落ち込み等に備え、年度間の財源の調整を図り、計画的な財政運営を行うために積み立てています。

令和元年度末の主要基金の残高は、総合戦略の推進を図ったことなどにより、取り崩しを行いましたので、前年度末から889,712千円減少し、7,295,105千円となりました。



乗合タクシー事業 決算額 3,097千円

東山地区で週5日（月～金）、1日4便運行の乗合タクシー事業を実施しました。

また、大所・小坂地区の住民が利用していた「安心院～亀川線」の路線バスの運行が9月末で廃止となることに伴い、10月から同地区で乗合タクシーの実証運行を行いました。



みんなで作る健幸のまちべっぴん事業 決算額 5,494千円

生活習慣に起因する疾患等の予防や機能改善を図り、健康寿命の延伸を目的とした「ヘルスケアロボットを活用した健康増進事業」、「ノルディック・ウォークの普及活動」、運動と温泉と食事を絡めた内容で、県のモデル事業として県下3市が選ばれた「温泉を活用した健康寿命延伸モデル事業」などに取り組みました。



NY支店開設事業 決算額 8,211千円

別府竹細工の海外での認知度の向上や販路拡大を図るため、ニューヨーク市でジャパン・ソサエティとトークプログラムを共同開催するなど、別府竹細工の魅力を発信しました。



コワーキングスペース運営事業 決算額 6,774千円

地域活性化、起業家支援、企業誘致や定住促進などを目指し、鉄輪に開設した「コワーキングスペース a sideー満寿屋」の管理運営を行いました。

休暇中に旅行を楽しみながら働く「ワーケーション」の場として利用する企業も出てきています。



令和元年度に実施した主な事業

別府ツーリズムバレー推進事業 決算額 6,000千円

別府が世界に誇る観光ビジネスの発祥の地となることを目指し、協議会で意見交換が重ねられてきました。

取りまとめられた構想は、1月29日、市長に提出されました。



観光客誘致受入事業 決算額 248,702千円

観光客の誘致・受入を図るため、ホームページによる国内・インバウンドの誘客の推進、RWC2019日本大会におけるおもてなしの対応、「幻想の湯」などによる国内プロモーションを行いました。



令和元年度に実施した主な事業

入湯税超過課税分活用事業(観光部門) 決算額 92,468千円

観光客の快適性、安全・安心の確保、観光客を増加させるための事業の推進、観光客の受入態勢の充実を図るため、入湯税超過課税分を活用し、ワンダーコンパス(右写真)の運営、別府駅外国人案内所等運営組織の強化、ラウンドオペレーター事業、トイレ環境の改善などに取り組みました。



入湯税超過課税分活用事業(温泉部門) 決算額 53,862千円

温泉資源の保護、共同温泉文化の継承を図るため、入湯税超過課税分を活用し、市民参加型の温泉調査(右写真)、大分県との共同による温泉掘削地域規制に係る調査、市有区営温泉のバリアフリー改修等の助成などに取り組みました。



東洋のブルーラグーン事業 決算額 7,690千円

東洋のブルーラグーン構想の実現に向けて、委員会で屋外温浴施設に関する基本構想が検討され、取りまとめられた報告書は、3月17日、市長に提出されました。

事業用地の可能性検討（右写真）では、海ゾーンの上人ヶ浜公園エリアが検討条件に適合することが確認されるとともに、山ゾーンの鍋山エリアに可能性が残るものとされました。



基図出典：国土地理院地図（電子国土 Web） <https://maps.gsi.go.jp/>

グローバル人材育成事業 決算額 3,181千円

グローバルに活躍する人材の育成を図るため、グローバルサポーター学校派遣、中学生大学キャンパス体験留学、小学生大学キャンパス体験学習（右写真）、インターナショナルスクールデイを行うことにより、英語でコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の向上、外国の文化を理解し尊重する態度の育成などに取り組みました。



図書館等一体的整備事業 決算額 27,094千円

新図書館等を整備し、文化が薫るまちづくりに取り組むため、市民自由参加公開型オープンプラットフォーム会議（右写真）を交え、委員会で新図書館等整備基本計画が検討されました。

取りまとめられた報告書は、3月25日、市長に提出されました。



国際スポーツ大会事前キャンプ等誘致事業 決算額 230,942千円

スポーツ観光、インバウンドの増加による地域の活性化、スポーツ文化の向上のため、ウェイトトレーニング施設の整備、RWC2019日本大会公認チームキャンプの受入れを行いました。



その他の主な支出

生活保護費 決算額 6,890,886千円

自立支援給付費 決算額 4,023,841千円

保育園（私立）運営費負担金 決算額 3,099,125千円

介護保険事業特別会計繰出金 決算額 1,897,417千円

後期高齢者医療療養給付費負担金 決算額 1,770,414千円

児童手当 決算額 1,544,585千円

保険基盤安定繰出金（国保特会） 決算額 934,824千円

児童扶養手当 決算額 847,837千円

国民健康保険事業特別会計繰出金 決算額 600,086千円

障害児通所支援給付費 決算額 547,275千円

広域圏事務組合負担金（藤ヶ谷） 決算額 713,620千円

亀川住宅建替事業 決算額 520,211千円

山田関の江線外道路整備事業 決算額 409,610千円

庁舎施設整備事業 決算額 395,885千円

市民ホール整備事業 決算額 149,479千円

介護保険施設等整備費補助金 決算額 144,452千円

橋りょう長寿命化事業 決算額 136,259千円

中学校統合事業 決算額 109,779千円

県施行負担金（街路） 決算額 100,116千円

県施行負担金（海岸） 決算額 85,973千円

充当明細表

令和元年度 都市計画税充当明細表

[単位：千円]

充 当 先		金 額
1	衛 生 費	374,055
	広域行政事業	371,221
	水道事業繰出金	2,834
2	土 木 費	307,276
	都市公園整備事業	58,564
	公共下水道事業特別会計繰出金	243,183
	街路整備事業	5,529
3	消 防 費	10,434
	消防水利整備事業	10,434
4	公 債 費	356,256
	長期債償還元金	330,589
	長期債償還利子	25,667
合 計		1,048,021

令和元年度 入湯税充当明細表

[単位：千円]

充 当 先		金 額
1	衛 生 費	19,284
	塵芥処理費	3,000
	し尿処理費	16,284
2	観 光 費	430,726
	別府市観光みらい創造基金積立金 (入湯税超過課税分)	154,726
	観光客誘致事業	155,000
	観光施設費	28,000
	温泉施設費	93,000
3	消 防 費	15,000
	消防施設費	15,000
合 計		465,010

令和元年度 競輪事業収入充当明細表

[単位：千円]

充 当 先		金 額
1	民 生 費	15,000
	在宅支援事業	15,000
2	衛 生 費	200,000
	予防費	200,000
3	教 育 費	85,000
	文化振興費	46,000
	体育施設費	39,000
合 計		300,000

令和元年度 地方消費税交付金（社会保障財源分）充当明細表

[単位：千円]

充 当 先		金 額
1	民 生 費	630,000
	自立支援給付事業	180,000
	介護保険事業特別会計繰出金	180,000
	後期高齢者医療事業	90,000
	保育所入所事業	180,000
2	衛 生 費	263,271
	予防接種事業	83,271
	子ども医療助成事業	45,000
	母子健康診査事業	45,000
	健康診査事業	90,000
合 計		893,271

令和元年度 別府市観光みらい創造基金繰入金
(入湯税超過課税分使用)

[単位：千円]

使 途	金 額
①温泉資源の保護、確保	53,862
②観光客の快適性確保（ストレスフリー）	14,470
③観光客の安全・安心の確保	29,473
④観光客を増加させるための事業推進 (魅力あふれる温泉地づくり)	43,740
⑤観光客の受入体制の充実	7,919
合 計	149,464